

埴生小学校保護者 様

埴生小学校長 西澤 真一

学校評価アンケートの結果について

二学期末に行った学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。たくさんいただいたご意見やご要望を全職員で共有しながら、今後に向けた改善の方向を考えました。子どもたちのよりよい成長に向けて、学校・家庭・地域の連携を一層深めながら努力していききたいと思います。今後とも本校教育へのご理解とご協力をよろしくお願い致します。

本年度はアンケートの全項目について、児童・保護者・職員別にグラフに表しました。ここでは特徴的に表れていると思われる事について考察を記させていただきます。

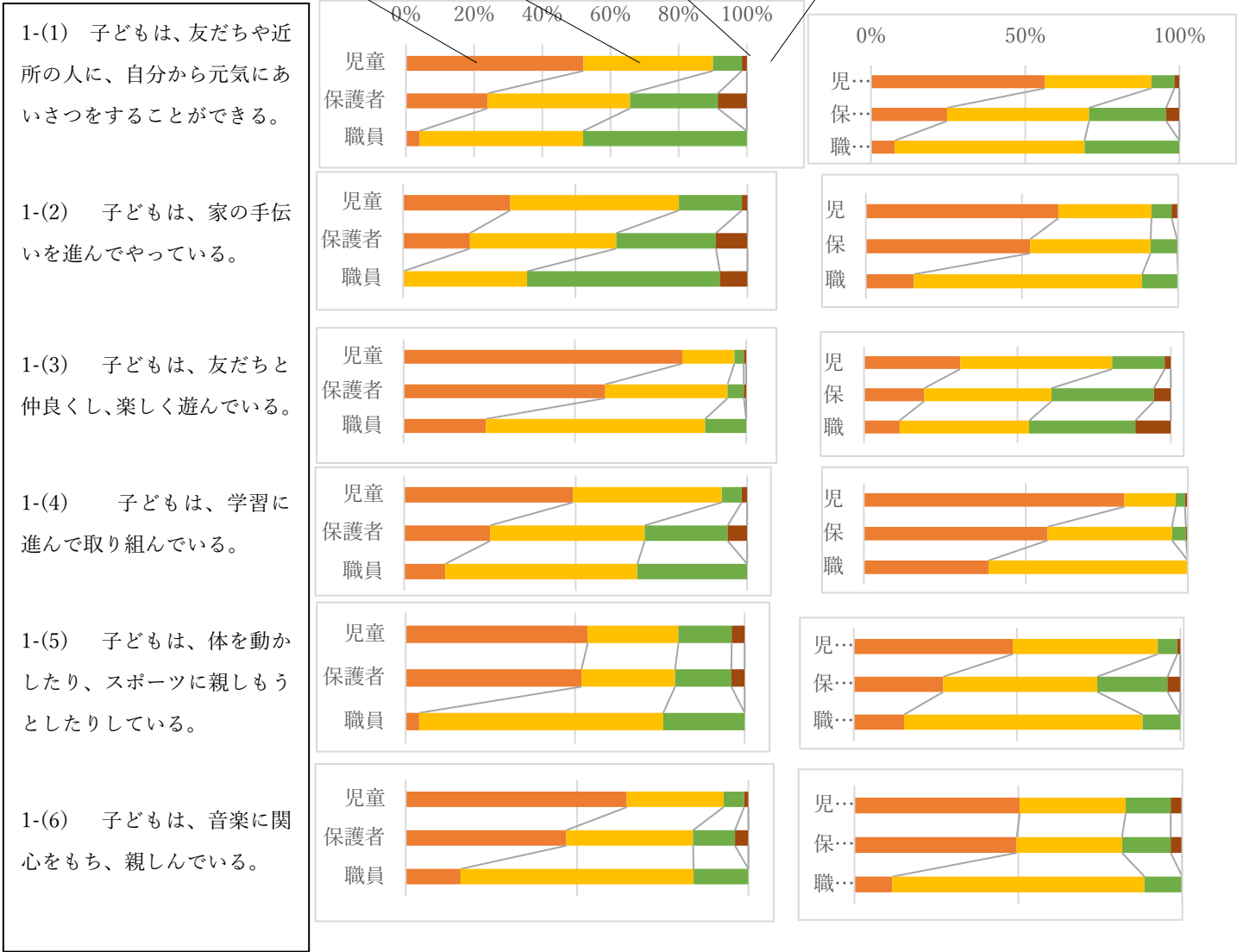
※提出者数 児童553名、保護者459名、職員25名、計1037名

1. 学校の重点活動について

R6 年度

R5 年度

棒グラフの左から A:そう思う B:だいたいそう思う C:あまりそう思わない D:そう思わない



【考察】

児童・保護者・職員とも肯定的な評価が最も高い項目は **1 (3) 「子どもは、友だちと仲良く、楽しく遊んでいる」** でした。この結果は昨年と同様の傾向で、休み時間や授業中、友だちと仲良く関わりながら生活をしている姿が多く見られます。一方で、児童・保護者の一定数は学校生活に心配や不安を抱えているという実態があります。保護者の声の中には「友だちに嫌なこと、本人が気にすることと言われることがある」など、友だちとのかかわりに悩む子がいることが伺えます。また、「先生が忙しそうで相談しづらい」というご意見も見られました。今後も子どもたちの表面的な姿だけでなく丁寧に実態を捉えながら個別に対応をしていくこと、また、子どもたちにとって相談しやすい雰囲気をつくり、日頃から子どもたちや保護者の声を素早く受け止められることに努めたいと思います。学校ホームページには、保護者の皆様が学校に相談する際の相談窓口も載っていますので、ご覧頂けたらと思います。

次に、児童・保護者・職員ともに最も評価が低い項目は、**1 (2) 「子どもは、家の手伝いを進んでやっている」** でした。こちらも昨年と同様の傾向となります。お手伝いは、家族の一員として役に立っているという本人の自信や、決めたことを続ける意志の強さにつながっていくと思います。学校でも係や委員会の仕事、当番活動などを通して「任されたことをやりきる」「責任を果たす」そして「周りから認められる」経験を大事にしています。ご家庭でもあらためて子どもたちに何ができるか話し合ってみてはいかがでしょうか。

また、**1 (1) 「子どもは、友達や近所の人に、自分から元気にあいさつをすることができる」** については、児童と保護者・職員の評価の開きが大きい結果でした。子どもたちは自分から元気にあいさつをしていると自覚しています。しかし、大人から見ると「声が小さい」「自分から進んでほしい」と感じることも多いのかもしれません。保護者の声としても「学校全体に挨拶が少ない」というご意見が見られました。子どもたちの少しでもできている姿を認めながら、家庭・地域・学校で連携してさらに気持ちのよいあいさつが響くよう、ご指導・ご助言をよろしくお願い致します。

昨年と比較して全体的に肯定的な評価が下がった項目は、**1 (4) 「子どもは、学習に進んで取り組んでいる」** でした。現在学校では、子どもたちの学習が「主体的・対話的で深い学び」となるように、ICT も活用しながら、教材や指導方法、ペアやグループ学習など学習形態等を工夫しながら授業改善を進めています。しかし、それが子どもたちの学習に向かう姿勢や意識の変容まで十分至っていないということでしょう。今後、教師側からの改善だけでなく、子どもたちにとって楽しい、進んで取り組みたくなる授業とはどのようなものなのか、子どもたちの声に耳を傾けながら授業改善を進めていく必要を感じます。

1 (5) 「子どもは、体を動かしたり、スポーツに親しもうとしたりしている」 については、昨年と比較して児童、保護者ともに「A そう思う」という回答が増えている一方で、「C あまりそう思わない」「D そう思わない」という意見もやや増える結果となりました。本校でも運動を進んでする子とそうでない子の二極化が進んでいるということだと思われます。学校では、今後も単に技術の上達を目指すのではなく、体を動かすことの楽しさを味わい生涯スポーツにつながるような指導を大切にしていきたいと思います。

1 (6) 「子どもは、音楽に関心をもち、親しんでいる」 については、子どもたちの「A そう思う」が増える結果となりました。音楽会に限らず日々の授業の中で音楽を楽しむことを大切にしたい指導がこの結果につながっているのだと思います。今後も感性を豊かにする教育活動を続けていきたいと思っています。

2. 学校全般について

R6 年度

R5 年度

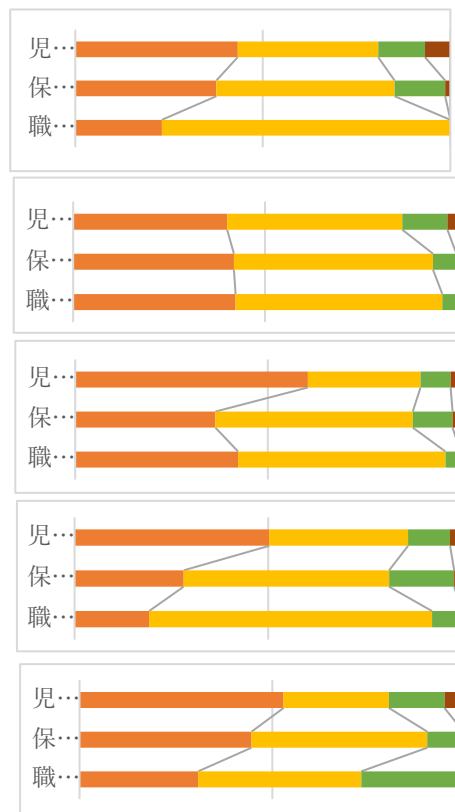
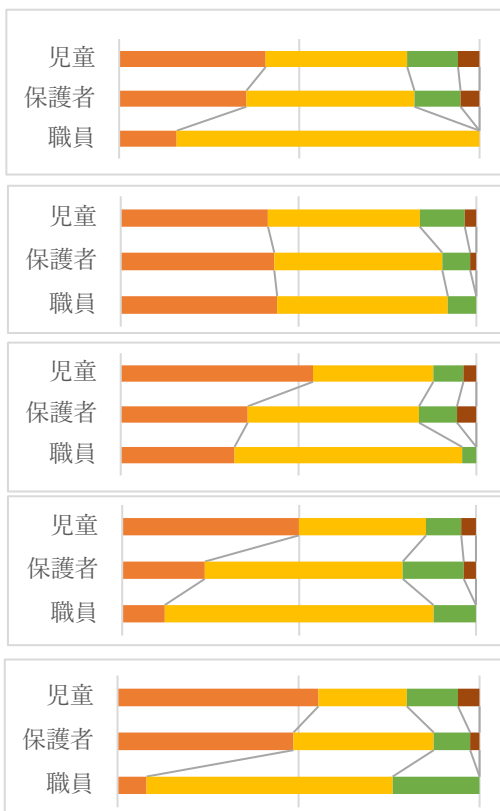
2-(1) 子どもは、学校に行くのを楽しみにしている。

2-(2) 子どもは、登下校や校内生活の安全面について、きまりを守っている。

2-(3) 職員は、子どもを理解し指導にあたっている。

2-(4) 子どもは、授業が分かりやすいと感じている。

2-(5) 学校だよりや学年通信は、子どもとのコミュニケーションに役立っている。



【考察】

2(1)「子どもは、学校に行くのを楽しみにしている」については、昨年度とほぼ同様の回答でした。多くの児童・保護者が肯定的に感じていることは嬉しいことですが、保護者からの「学校に行くことを嫌がる日もあり親として戸惑いました」のように、「楽しくない」と感じている児童・保護者がいることを大事に考える必要があります。どの子にとっても学校に通うことが楽しいと思えるように日々の活動を工夫したり、職員が児童の様子をよく見たり話を聞いたりして、思いや悩みを汲み取れるようにしていきたいと思います。子どもたちとの対話を増やすことや、保護者の方との連携をさらに図りながら、一人ひとりに寄り添った支援ができるよう努めたいと思います。

2(2)「子どもは、登下校や校内生活の安全面についてきまりを守っている」についても昨年度とほぼ同様の回答でした。肯定的な回答が多い一方で、本年度も地域の皆様から児童の登下校の仕方について「道に広がって歩いていて危ない」「キックボードの乗り方を指導してほしい」「地域の家の敷地を通っている」など何度かご指摘を頂きました。また、保護者からも「登下校のマナーが悪い」「見かけたら注意しているがなかなか改善されません」など登下校の安全にかかわるご意見が見られました。この他に自転車の乗り方や不審者への対応なども含めた安全面にかかわる指導については、繰り返し学校でも指導していますので、ご家庭でも再度これらの確認と日々の声かけをよろしくお願い致します。

2(3)「職員は、子どもを理解し指導にあたっている」、2(4)「子どもは、授業が分かりやすいと感じている」については、全体的な傾向は昨年度と同様なものの、どちらも職員の「Aそう思う」が昨年度より下がっている点を重く受け止めたいと思います。生徒指導と学習指導は学校教育の中で最も大切なことと考えます。そのことを職員自身が改めて自覚し、これまで以上に児童理解、授業改善に努め、職員自身が「Aそう思う」と自信を持って答えられるように努めていきたいです。

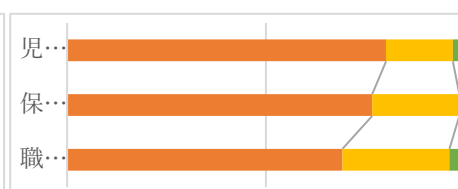
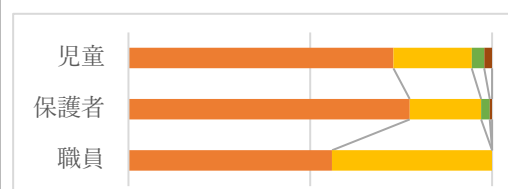
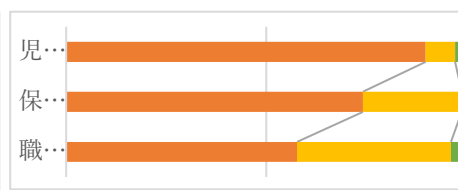
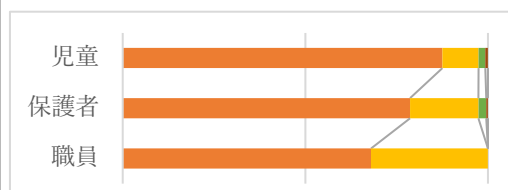
3. 学校行事・その他について

R6 年度

R5 年度

3-(1) 運動会や音楽会などの行事が、子どもの心身の成長につながる行事になっている。

3-(2) 子どもは、学年の行事を楽しみに取り組んでいる。
(社会見学・遠足・田畑での栽培活動など)



【考察】

3の学校行事については、(1)「**運動会や音楽会などの行事が、子どもの心身の成長につながる行事になっている**」(2)「**子どもは、学年の行事を楽しみ取り組んでいる**」のいずれも児童・保護者・職員共に高い評価が得られました。学校・学年行事は多くの子どもにとって学校生活の大きな楽しみの一つです。各行事をこなすだけで終わるのでなく、質問にあるように、子どもたちの心身の成長につながっているか、目標を持って取り組んだり達成感を味わったりできているか、などをしっかりと振り返っていききたいと思います。

また、逆にその行事があるから学校に行きたくない、と感じるような行事も子どもによってはあることも事実だと思います。子どもたちの状況や特性を考慮して、いろいろな実施の仕方や参加の方法も考えていきたいと思っています。ここでも保護者の方との連携が重要と考えます。

《その他》

「先生の言い方伝え方をもう少し優しくしてもらいたい」「注意や指導をする際は、子どもたちの思いも汲み取り子どもたちが納得する指導をお願いしたい」など、教師の言動や指導のあり方に対するご意見もいくつか頂きました。職員ではアンガーマネジメントや子どもの特性理解に関する研修も進めておりますが、不適切な言動等がないよう、あらためて全職員で共有していきたいと思っています。

その他にも「欠席時の連絡帳等を届ける方法」「夏季休業中の自由研究のあり方」等たくさんのご意見ご要望をいただいています。学校として今できることを検討しながら改善に努めていきたいと思っています。お気づきのことがありましたら、アンケート時だけでなく、いつでも学校までご連絡をいただけますようお願い致します。